

2024 (令和6)年度東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

言語研修生募集要項

ILCAA Intensive Language Courses 2024

言語研修について

この研修はアジア・アフリカ言語文化研究所の研究者養成事業の一環で、アジア・アフリカ地域での現地調査・研究や専門的業務に役立つ現地語の習得を目的としています。日本の専門研究者と母語話者がペアで講師を務める点が特徴です。

大学在學生、大学卒業生または上記の目的に必要な学力及び動機をお持ちの方であれば、どなたでもご応募いただけます。

募集言語について

ツォンガ語、トラパネク語

各言語の研修期間、研修時間など、研修内容についての詳細は、それぞれのページをご覧ください。※諸事情により、日程・開催時間が変更となる可能性があります。

募集定員について

各言語 約10名（当研究所で書類審査により選考します。）

募集期間について

募集期間: 2024年5月30日(木)～2024年6月20日(木)

6月13日(木)エントリー締切、20日(木)書類アップロード締切。

[主催／企画] 東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 <http://www.aa.tufs.ac.jp/>

応募方法について

所定の受講申込書に必要事項をご記入の上、在学証明書または最終学校の卒業証明書(写)を添えて、お申し込みください。

※申し込みは、Web上でのみ受け付けます。

※当研究所ウェブサイト(<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2024>)のエントリーボタンより、必要事項を入力し、エントリーをしてください。自動返信メールに書類アップロード先のURLが記載されていますので、期日までに必要書類を提出してください。

※申込書に記入いただくEメールアドレス宛に選考結果通知のPDFをお送りしますので、ilcaa-ilc@tufs.ac.jp からPDFファイルが受信できるアドレスをご記載ください。

問い合わせ先について

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所2階206室
研究協力課共同研究拠点係
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610
Email ilcaa-ilc@tufs.ac.jp

選考結果について

受講の可否は、7月下旬に本人あてにEメールにて通知します。

受講手続きについて

受講を許可された方は、所定の期日までに、研修言語ごとに定められた額の受講料を一括納付してください。

受講料等は各言語のページをご覧ください。

受講料振込先情報および振込期日は、選考結果通知に記載してあります。

口座振込に係る手数料はご負担をお願いいたします。

授業の実施方法について

原則として対面で行います。ただし、社会情勢の変化などにより、全日程をオンライン授業に切り替える場合があります。

修了要件と修了証書について

研修言語ごとに定められている授業時間数の3分の2以上出席し、かつ所定の成績を収めた受講者に修了証書を交付します。

文化講演について

研修の一部として担当講師以外の外部講師を招き文化講演を行います。

文化講演は一般向けに公開することがあります。



受講までの流れについて

受講申込



P.1記載の「応募方法について」に従ってお申し込みください。

確認メール送信



書類提出後、確認メールをお送りします。

選考結果通知をメール送信



選考を通過された方には、受講料等の振込先および、初日の集合時間等についても、あわせてご案内いたします。

受講料振込



通知書に記載された期日までに、受講料等をお振込みください。
振込手数料は自己負担となります。

受講料振込確認メール送信



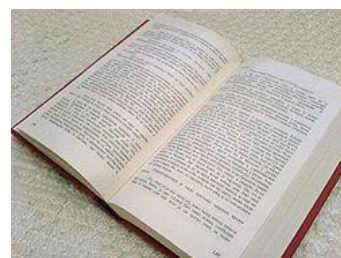
期日までにお振込が確認できない方には、事務局から確認メールをお送りします。

研修に関する連絡をメールにてお知らせ



各言語ごとにメーリングリストを作成し、必要に応じて、研修に関するご連絡を差し上げます。

研修開始



受講上の注意について

- 会場には駐車場はありません。受講時は公共交通機関をご利用ください。
- 本研修の受講生は正規の学生ではありませんので、学割定期券の購入はできません。
- 宿泊施設については、ご自身でご手配くださいますようお願いいたします。

研修会場について

東京会場 [ツオンガ語・トラパネク語]

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
TEL 042-330-5603, FAX 042-330-5610

AA研へのアクセス



- JR中央線「武蔵境駅」から西武多摩川線に乗り「多磨駅」で下車(所要5分)。駅から徒歩5分。 ※西武多摩川線は12分間隔。
- JR中央線「三鷹駅」から小田急バス鷹52系統に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要30分)。停留所から徒歩2分。
※小田急バス時刻表:
<http://www.odakyubus.co.jp/cgi-bin/search/mapsearch.cgi>
- 京王線「飛田給駅」から京王バス飛02系統・調33系統(いずれも多磨駅行き)に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要7分)。停留所から徒歩2分。
- 京王線「調布駅」から京王バス調33系統(多磨駅行き)に乗り「東京外国語大学前」で下車(所要20分)。停留所から徒歩2分。
※京王バス時刻表:<http://www.bus-navi.com/>



※ アジア・アフリカ言語文化研究所は6番の建物です

ツォンガ語

》 初学者向け 》 東京会場 》 日本語での授業

ツォンガ語 (Xitsonga, ISO 639-3 tso) は南アフリカ共和国のリンポポ州で話される言語で、国の12の公用語のひとつとして、主に東北部のリンポポ州で話されています。系統的にはサハラ砂漠以南に広く分布しているバントゥ諸語 (ニジェール・コンゴ語族) のひとつです。ツォンガ語は南アフリカで話される他のバントゥ語系の言語と文法的には多くの共通点がありますが、細かく文法を観察すると多くの相違点もあります。また、発音には特殊なものも多く、他のバントゥ語の話者からも難しい言語だと考えられています。口笛のような面白い発音もあります。

ツォンガ語は、南アフリカ以外にもジンバブエとモザンビークで話されています。しかし、リンポポ州以外の都市部に移住した話者は、ツォンガ語から別の言語に切り替えて話すこともあります。この研修では、ツォンガ語のみならず、ツォンガ語が話される地域の文化や歴史などを、ネイティブ講師から学ぶことができます。

研修の対象者について

ツォンガ語を含むバントゥ諸語の研究に興味を持つすべての学部生・大学院生・研究者が対象になります。また研修は現地調査における言語記述の手法 (フィールド・メソッド) をとおして行われますので、研究対象言語にかかわらず、言語の記述的研究を目指すすべての学生がこの研修の対象に含まれます。さらにはツォンガ語が話されている南アフリカや南部アフリカ諸国を対象とする人類学、歴史学、その他社会科学を含む地域研究を志す人々も対象に含まれます。

研修内容について

本研修は、フィールド・メソッドのコースとして開講され、ツォンガ語のさまざまな文法項目を調査します。一般的な語学研修とは異なり、具体的な調査に入っていくために、言語記述や分析に関わる基本的な知識と技術の習得も行います。調査のためにあらかじめ準備した調査ハンドブックをもとに、受講生とネイティブ講師とのインタラクションをおととして、ツォンガ語の文法的な規則性をあぶり出していきます。

テキストについて

テキストは文法を記述するための道具として準備されます。具体的には、発音と語彙と文法調査をするための調査票と、バントゥ諸語の基本的な特徴をまとめた調査ハンドブックを用います。

研修期間および研修時間について

2024年8月19日 (月) ~ 2024年9月6日 (金) 75時間 (文化講演含む)
午前10時00分 ~ 午後4時30分 (土、日は休講)

文化講演について

実施予定。詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします。
<http://www.aa.tufts.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2024>

受講料について

45,000円 (教材費込み)



講師プロフィール

李 勝勲(イ スンフン)

現職: 国際基督教大学上級准教授

1975年ドイツ・クレーフェルト生まれ。アメリカ合衆国ニュージャージー州立ラトガース大学博士課程修了(博士: 言語学)。セントラルコネチカット州立大学助教授、准教授(2008-2015年)、フォルクスワーゲン財団のポスドク研究員(2012-2013年)を経て現職。2010年から南アフリカ共和国リンポポ州のトホヤンドウのベンダ大学で、南バントゥ系現地語(ツォンガ語など)の調査に従事。2016年から国際基督教大学でフィールド・メソッドの授業も担当。

Crous M. Hlungwani(クラウス・フルンガーニ)

現職: ベンダ大学准教授

1969年南アフリカ共和国リンポポ州生まれ。南アのシュテレンボシュ大学博士課程修了(博士: 言語学)。ベンダ大学でツォンガ語セクションのジュニア講師(1996-1997年)、講師(1998-2013年)、専任講師(2014-2022年)を経て現職。研究分野は形態・統語論を中心としたアフリカ諸語言語学。理論言語学の観点からツォンガ語の分析や文法の記述を行っている。



トラパネク語

》 初学者向け 》 東京会場 》 日本語での授業

トラパネク(自称メパー)語は、メキシコ・ゲレロ州で約13万人により話される先住民語です。トラパネク語はオトマンゲ諸語の一つであり、他のオトマンゲ諸語と同様声調言語で3つの声調レベルを区別します。トラパネク語は特にその形態音韻論や形態論が複雑なことで有名であり、動詞の活用における声調交替の複雑さから「世界で一番複雑な声調体系をもつ」と評されたこともあります。トラパネク語は動詞では主語と目的語を標示し、名詞に格標示のない主要部標示型の言語です。動詞にはさらにアスペクト・ムードが標示されます。

トラパネク語は、マヤ諸語やアステカ帝国の公用語であったナワトル語と同様、メソアメリカ先住民語の地域的特徴を数多く持つ言語です。代表的な特徴として20進法、動詞初頭語順、身体部位名詞の前置詞としての機能、メソアメリカ特有の表現(例えば「読む」と「数える」が同じ動詞)などがあります。

また、トラパネク語地域であるアソユ村からは、16世紀に記録されたと考えられる絵文書(Codex Azoyú)が見つかっています。

研修の対象者について

言語学、メソアメリカ諸語、或いはメソアメリカ地域を対象とする人類学、歴史学、その他社会科学を含む地域研究に興味のあるすべての学部生・大学院生・研究者が対象です。また、研修は現地調査における言語記述の手法(フィールド・メソッド)も含むので、研究対象言語に関わらず言語の記述的研究を目指すすべての学生がこの研修の対象に含まれます。

研修内容について

文字と発音の学習を通じて基本的構造の理解や基本的な会話、語彙集を参照しながら簡単なテキストを読めるようになることを目指します。また、授業全体を通じてメソアメリカ地域の言語の特徴を理解することをゴールとします。

テキストについて

これまでの先行研究及び講師らの共同研究に基づいて作成したテキストを使用します。

研修期間および研修時間について

2024年8月19日(月)～2024年9月6日(金) 75時間(文化講演含む)
午前10時00分～午後4時30分(土、日は休講)

文化講演について

実施予定。詳細は後日ウェブサイトにてお知らせします。

<http://www.aa.tufs.ac.jp/ja/training/ilc/ilc2024>

受講料について

45,000円(教材費込み)



講師プロフィール

内原 洋人(うちはら ひろと)

現職: 東京外国語大学総合国際学研究院 准教授
 ニューヨーク州立大学バッファロー校博士課程修了(2013年、言語学)。2014年から2022年までメキシコ国立自治大学において、専任研究員としてメキシコ先住民語を研究。2022年より現職。主な著作に *Tone and accent in Oklahoma Cherokee*. Oxford Studies of Endangered Languages Series. Oxford University Press (2016), A phonological account of Tlapanec (Mè'phàà) tonal alternation. *Journal of Linguistics* 56.4: 807-863 (2020, Gregorio Tiburcio Cano 氏と共著)など。専門はメキシコを含めた北米先住民語、音韻論、形態論。



Gregorio Tiburcio Cano(グレゴリオ・ティブルシオ・カノ)

現職: メキシコ・ゲレロ州教育庁 教師
 メキシコ・Colegio de Posgraduados プエブラキャンパス(2015年、先住民地域持続可能開発学)修士及び社会人類学高等研究所(Centro de Investigaciones y Estudios Superiores en Antropología Social)修士(2017年、アメリカ先住民言語学)。2013年から2018年までトラパネク語教材の開発に従事、2018年より現職。メキシコ国内の様々な教育機関にて授業やワークショップなどを行うとともに、トラパネク語による出版物の査読及び校正に携わる。現在は主に小学校教師を対象に、生徒たちにトラパネク語で読み書きを促す方法を指導。また、メキシコ・国立先住民語研究所(INALI)と共同でトラパネク語の正書法の策定を行ったり、教育文法の出版に携わる。主な著作に *El valor proporcional de nutrientes que brindan los guajolotes y su equivalencia en los alimentos que consumen*(2015, Colegio de Posgraduados)、*La flexión verbal del me'phaa de Zilacayotitlán* (2017, 社会人類学高等研究所修士論文)など。トラパネク語ウエウエテペク方言の話者である。専門はトラパネク語、形態論、言語教育、言語ドキュメンテーション。

